安心のプロショップ全国ネット
カーリフォーム
キズ へこみ 保険事故車の完璧修理
http://car-reform.com/

6月号
楽しい暮らし

発行：（有）日本ジャーナル社
208-0013東京都武蔵村山市大南5-8-1
TEL 042-563-6961 FAX 042-563-0277
編集発行人：井上勝彦　絵：そねたあゆみ
http://omosiro-column.com

2014年06月244号

宮崎四兄弟父母の教え

先般、「孫文の子孫と宮崎滔天の子孫が会談」という記事を目にしたのですが、孫文を支援した日本人としては、最近では梅屋庄吉が有名ですよね。当時、孫文の支援者として有名だったのは宮崎滔天を始め、頭山 満や平岡浩太郎といった人たちだと聞いております。

（先日、テレビで「天皇家の親戚で大正三美人の一人に謳われた柳原白蓮が人妻でありながら、若き東京帝大の学生と駆け落ちした・・・」という、当時の大スキャンダルについて採りあげた番組の中で「その帝大生が宮崎滔天の息子・龍介だった」という説明があったときに、ゲストは皆、「誰？」状態で、これを見た司会者が「お父さん（滔天）はちょっと前までは有名でしたよ」と述懐しておられました。）

その、宮崎滔天・・・ですが、実は私も、「孫文を支援した民権運動家」、「長兄は西南戦争で戦死」、「息子は筑豊の資産家、伊藤伝右衛門夫人・柳原白蓮と駆け落ちした」「宮崎四兄弟と呼ばれ、特に早くに戦死した長兄を除く下三人は民権三兄弟と呼ばれた」・・・というくらいにしか知らないのですが、とにかく戦前は有名だったそうです。

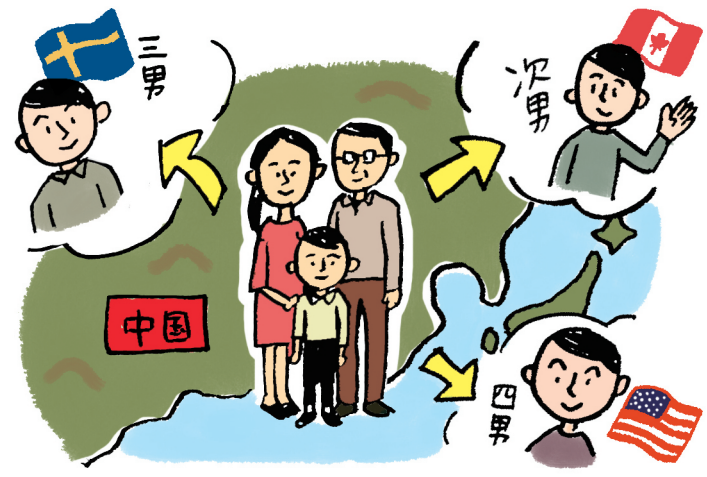
ただ、今はおそらく、この名前を知る人は決して多くないと思いますので、簡単に触れておきますと、長兄が嘉永4年（1851年）生まれの宮崎八郎、次兄が慶応元年生まれの宮崎民蔵、三兄が慶応3年生まれの宮崎弥蔵、そして末弟が明治3年（1867年）生まれの宮崎寅蔵（滔天）なのですが、当然、私がこの兄弟の業績について何事か語れるわけもなく、申し上げたいのはその両親の教えについてです。

兄弟の父は長兵衛、母は佐喜と言い、（ちなみに、四人以外の男子は皆、早世したそうで、八郎が次男、寅蔵は八男だそうです。）宮崎家は肥後国玉名郡荒尾村（現熊本県荒尾市）の下級士族の出だったそうですが、両親は兄弟が幼い頃より、「男子が畳の上に死するは恥辱なり」と言い聞かせていたそうです。つまり「男と生まれたからには平凡に死ぬな！」ということで、いかにも、明治という時代の雰囲気を感じさせる話ではありますが、（今の草食日本には当てはめる事自体、宜なる哉と・・・。）ただ、一方で、この点では思い起こすことがあります。

それは、中国の客家（はっか）というものの子供たちへの対処の仕方についてでして・・・。客家というのは簡単に言うと、昔の中国で戦乱を避けて中央から移り住んできた人たちのことで、鄧小平、李登輝などを輩出したことで知られます。

が、その多くは現地の人達との軋轢も有って少なからず迫害の歴史を経てきており、そのため、国家というものをまったく信用していないのだとか。

したがって、子どもが４人いたら１人は中国に置き、残りはアメリカやヨーロッパ、日本などへ分散して住まわせる・・・と。



つまり子どもが可愛いからといって、一族が一つ所に固まっていたら、戦争や天災などにあった場合、一族が一度に全滅するということになりかねないわけで、これはこれで、確かに、考えさせられる話ではあります。

もっとも、この一理ある話を宮崎兄弟の親にしたならば、一言、「だから何？」と言われたのかもしれませんが・・・。

（小説家　池田平太郎）

夏場に辛い陽盛体質

これから夏に向けて、体調管理に気をつけていただきたいのが、陽盛体質の方です。陽盛体質とは、文字通り、陽が勝る体質で、一見してとても元気な人です。陽が盛んであると、活動的で、いつもエネルギッシュ、上半身に熱を持ちやすく、高血圧、目が赤い、赤ら顔、喉が渇く等の症状が出やすく、夜になっても一向に眠気がきません。

このような状態のとき、肝と心に熱をもちやすく、じっとしていられない、仕事など、疲れていてもやらないと気がすまない、いつもイライラする、欲求が通らないと鬱になりやすい・・・などリラックスできない状態に陥ります。

したがって、汗をかいて放熱することも大切なのですが汗のかきすぎによる陰の消耗は、身体の熱をさますラジエーターの水の不足と同じで、オーバーヒート状態を起こしやすくなります。

オーバーヒート状態は、脱水、血液の粘度が高まり、熱射病、心筋梗塞、脳梗塞などの突然死につながります。

適切な水分補給は、勿論大切なのですが、陰を補う養生は一にも二にも睡眠であるので、丈夫だといって過信せずに、早めに休むことが大切です。日中の最も暑い時間帯も、少しお昼寝（２０～３０分身体を横にするだけでもＯＫ）するとよいですね。

津液を速やかに補充する飲み物は、甘味＋酸味のあるものですので、ハチミツレモンなどがお勧めです。

酸味にはクエン酸も多く、速やかに夏の疲れを癒してくれます。

また、陽盛体質の方は、焼き肉、揚げ物、餃子、ニラ、ニンニク、ネギ、キムチ、アルコールなど身体に熱を込めやすい食べ物は、特に夏場は謹んで下さい。

陽盛体質の方の養生は、引き算の養生・・・タンポポ茶や、紅羅布麻で、解熱、解毒、解鬱をはかり、体内を浄化しクールダウンすることで、長持ちする身体を作ります。

（薬剤師、薬食同源アドバイザー　高田理恵）

ワーカーホリックな方の多くがこの体質です。

夏は気温が上昇して、上半身の熱がさらにこもりやすく効率的に汗をかけないと危険な状態に陥ります。

したがって、汗をかいて放熱することも大切なのですが汗のかきすぎによる陰の消耗は、身体の熱をさますラジエーターの水の不足と同じで、オーバーヒート状態を起こしやすくなります。

和装 deグルメ
http://atec.hetemL.jp/wdg/
着物を着て街に出ておいしいものを食べて２０歳若返るグループ

投稿歓迎！
無料掲載！
PHOTO 俳句
デジカメ時代の現代俳句
http://kenken.vc/?cat=30

PhotoRevo
編集～入稿～印刷発注～納品まで代行します。
で、１冊だけの本作りＯＫ！
http://jiden.info/

オリジナルデザインで即、商品化

小さな箱に入った小包みが宅配便で届いた。先日ネットで頼んでいたマグカップだ。思っていたよりきれいに出来ている。

自分で作ったデザイン画をネットで投稿すると、Tシャツやマグカップ、スマホカバー、手提げかばんなどを1個から作ることができ、しかも、販売もできるというおもしろいサイト（suzuri）を見つけたので、早速、やってみたのだ。

デザインは小生が主宰している自動車修理工場の全国ネット「カーリフォーム」のロゴとキャラクターマーク、CRをあしらったものだ。

しばらく、陶芸をやっていたので、転写技法は理解しているが、これらを、ネットでシステム化し、しかも、作った商品は、そのまま、ショップで売ることができる。デザインを投稿して、そのデザインをプリントしたそれぞれの商品（自分の取り分を上乗せして商品価格を設定できる）が、即座にショップに出品される。もちろん、自分で、その商品を購入することも出来る。自分の取り分を2000円で設定したので、マグカップの価格は1717円（税込み）、これに、送料が全国一律500円かかる。（送料は商品点数にかかわらず1回送付に付き）

売上げに応じた自分の取り分（マージン）は、1000円以上に達しないと振り込まれない。したがって、自分買いの場合、取り分は少なく設定するべし。

ほとんど売れることはないと思って、投稿した方が気が楽だ。当初は自分用に投稿することをお勧めする。間違って、ネットで炎上して、注文が殺到することがあるかもしれないと、宝くじ的な期待を持つのも楽しい。自分買いしなければ、一切費用はかからないのがいい。

近々、かわいい孫の写真を入れた1点もののTシャツを作てプレゼントする予定だ。ただ、この場合、この商品が売れても困るので、制作当初は取り分をゼロに設定し、自分買いした後は、商品が売れないように取り分を高く変更して商品価格を吊り上げてしまうのも手だ。

【参考】筆者のショップURLはhttps://suzuri.jp/atecik

（ジャーナリスト　井上勝彦）

衣替え

6月1日は衣替えの日だ。この日を境に学生や企業の制服が夏服に替わる。とはいえ、最近は温暖化のせいか、暑い寒いが、必ずしも一定ではない。5月でも夏日が続くことも珍しくはないし、6月に入っても朝晩は涼しいこともある。

衣替えだといって、タンス内の衣服を全て替えてしまうのも考え物だ。冬用の衣服でもヒートテックなどと称して薄手のものでも保温効果のあるアンダーウエアもあるし、会社内では冷房が効きすぎて、夏服では寒い場合もあるなど、季節感も薄れている。

リタイア族などは、衣替えで衣装ケースに仕舞い込んだものを、翌年は1度も使用しないで、デットストック化している事例も珍しくない。

衣替えの習慣は平安時代の宮中行事から始まったといわれている。中国の風習に倣って旧暦の4月1日および10月1日に夏服と冬服を着替えると定めて、これを「更衣（こうい）」と呼んだ。しかし、天皇の着替えの役目を持つ女官の職名も更衣と言い、後に天皇の寝所に奉仕する女官で女御（にょうご）に次ぐ者を指すようになったので、民間では更衣とは言わず衣替えと言うようになったという。（「年中行事事典」年中行事事典」西角井正慶編　東京堂出版）

明治6年に新暦（太陽暦）が採用され、6月1日～9月30日が夏服、10月1日から翌年5月31日が冬服と定められた。

ちなみに、和服は、6月になると単衣（ひとえ）（着物に裏地がついていない）を着、10月になると袷（あわせ）（着物に裏地がついている）を着るというきまりになっている。

植物は、秋冬と春夏では、葉の色も、茂り方も替わるし、動物でも、ホッキョクギツネやテン、ウサギの一部の品種など季節によって毛の色が替わるものもあり、これらは自然界の衣替えといえる。

そういえば、今年の冬は毛皮のコートを着ている人に一度も出会わなかった。

（コラムニスト　小屋耶麻）

自動車修理専門書籍の購入はネットが便利!
自動車修理専門書店
http://tebra.jp

Beatiful Life
健康で元気に長生きする情報を
紹介・共有するサイト誕生！
健康長寿研究所
おせっかい爺の結婚相談室
健康長寿研究所
でしゃばり婆の結婚相談室
登録無料！
健康長寿研究所
http://kenken.vc/

電子ブック化代行します!
PDF資料やパンフを本を開くような感覚で閲覧できるのが魅力で好まれています。
http://jiden.info/